

A-1 山元町中浜地区

2012年5月31日(木)

報告者名	高倉 浩樹	被調査者生年	未確認(男)
調査者名	高倉 浩樹	被調査者属性	山元町教育委員会職員(B-8話者)
補助調査者	稲澤 努・兼城 糸絵		

話者について

山元町役場において無形民俗文化財担当から話を聞く。2012年度となり、担当者が変わったため挨拶と今後の予定について打ち合わせを行うために訪問した。昨年度と同様に中浜地区の神楽を中心に調査をおこなうが、その実態を理解するため、隣接地区内のほかの文化団体との関係を含めて聞き取りをする予定であることを伝えた。以下はそれに対する話者からの情報である。

町のなかの文化団体について

神楽などの活動は、生涯教育という観点から、町の教育委員会のほうで団体の情報について収集している。坂元おけさの団体はすでに活動している。先行して活動に必要な物品の購入は行っている。6月には納品され、7月の発表会にむけて準備を進めている。中浜神楽について。太鼓や笛は昨年度に購入済み。復興には衣装・お面などが必要だが、お面などの調達が難しい。笠浜甚句保存会。団体そのものがなくなってしまった。かつてはJA(全国農業協同組合連合会)の(山元町)婦人部がやっていたが、今は全地区でやっという風になっている。意外なことだが、被害を受けていない団体の活動が意外に活動を再開できていない。その点は町としてももどかしさを感じている。

自分は実は県の文化財復興プロジェクトに関しては、映像記録事業のとりまとめも行っている。仙台地区のとりまとめが自分の担当。こちらもなかなかうまくすすんでいない。仙北地方(宮城県の北部)のほうは新聞を見ると、活発に活動が行われている。これを見ればなぜ出来るのかと思ってしまう。

八重垣神社とお天王さま祭

八重垣神社については、宮司の方が今年度は山元町の文化財委員となった。八重垣神社は、震災前と同じ場所に復旧するという希望である。ちなみにこの地区は現在人が暮らすことは禁止されている地区である。とはいえ、とりあえず神社はたてるということにし、そのために鎮守の森をつくることになった。6月24日に植樹祭が行われる。日本財団からの支援で、3,500本の木が植えられる。日本財団はこのための財源として、ストラディバリウスを売ったらしい。その後は仮社殿を建てるという予定のようだ。これに並行する形で、これまでの祭りである「お天王さま祭」を今年度からやりたいという希望をもっている。氏子も含めて、祭の実行を宮司さんは希望している。

御輿は奇跡的にみつかった。現在は別の場所においてある。お天王さま祭をやる場合、時期は7月中旬だが、それは実際には間に合わないだろうと思う。だからその場合、借りてきてやる。なお例年のように海にはいることはできないと思う。仮設住宅を練り歩くかどうかは未定。今後については、お天王さま祭にあわせて衣装を購入することができるかどうか確認する。

無形文化財団体への援助の方法

衣装などの購入については、県のプロジェクト委員会に予算があるので、そこに見積書をつけて要求する。通常はそれで支給される。見積書は地元の業者さんに出してもらう。衣装品の場合、地元の衣料品店を通して発注する

ことになる。震災前から衣装の購入は地元の衣料品店が担当していたので、その点は問題ない。予算が下りるかどうかは、保存団体などの活動ができて、かつ今後も継続できる見通しになっているかどうか条件だという。この点は、県の文化財保護課で判断される。



写真1 閉鎖された JR 山下駅



写真2 JR 山下駅前の感謝看板